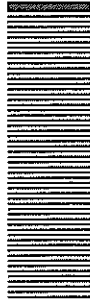


TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学



情報通信研究機構

NICT 先端研究

Cinet

⑨

そ、精神疾患の本質に迫ることができる。

脳情報通信融合研究センター(Cinet)はこの観点から精力的に研究を進めている。元々私は情報科学や応用数学の研究者だったが、Cinetで融合研究を進める中で、医学との連携で、精神疾患の研究にも取り組んでいる。

最近の脳研究の発達や脳機能計測技術の高精度化という研究の流れの中で、精神疾患の診断に、高空間分解能で脳活動計測したfMRI(機能的磁気共鳴の回路、すなわちネットワーク)を知ってこ

に脳機能の異常である。遺伝子の変異やたんに質の構造変化などに原因を求める研究が多いが、精神とは脳の神経回路の複雑な情報処理の結果として生まれるものであり、このR1(機能的磁気共鳴の回路、すなわちネットワーク)を知ってこ

脳機能データを解析し始める、大きな壁健康者群と患者群の間にぶつかった。個人間に明確な差があるよう

Cinetには情報の科学を専門にする研究者も活動しており、グループ理論などのネットワークと健康者群を明確に区別することができ

その視点から患者観的な検査による診断の脳神経ネットワーク法はいまだ確立してない。そこで私は、大阪大学大学院連合小児発達学研究所の橋本亮太准教授と共同で、統合失調症患者のfMRI

しかし、実際に解析を考慮しつつ、なるべく患者群、健康者群のデータをセットで同様の解析

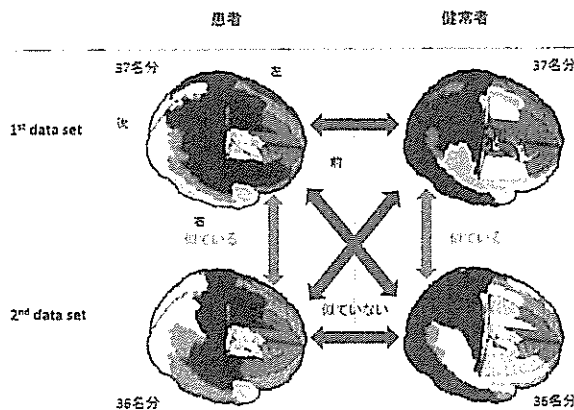
精神疾患診断に脳解析活用

脳情報通信融合研究センター主任研究員 下川 哲也

阪大大学院修了後、同大学助手、特任准教授を経て、10年より現職。ヒトの脳のネットワーク解析に関する研究に従事。最近では医療情報と情報科学を結び付ける研究を進めている。



開発したモジュール解析方法



を行った場合でも、同様に区別することができた。この手法を使うことにより、結果のばらつきを軽減し、統合失調症患者群と健康者群を断法につながる。(火曜日に掲載)